

「話し合い活動」

本校では、楽しい活動を自分達で創り上げていく方法の一つとして、話し合い活動に取り組んでいます。

学活(1)では、児童の願いを叶えるため、長年培ってきた道徳的实践力を基盤とし、計画委員と呼ばれる児童が中心となって話し合いを進め、折り合いをつけながら集団決定をする自発的・自治的な活動を行っています。学校、学年、学級に目を向け、「ためになる」「高める」「楽しい」の3つの視点から、話し合う議題を出し合っています。また、話し合い後や実践後には必ず振り返りをし、新たな課題解決へと繋げていきます。

学活(2)では、自己を振り返り、自己を高めるための話し合い活動を行っています。学活(3)は自身のこれからについて考える時間としています。

即効性を求めるのではなく、様々な視点から話し合い、実践を積み重ねることで、楽しい学校や生活を自分達で創り上げていくことを目指しています。

学活(2)「素敵なあいさつ」

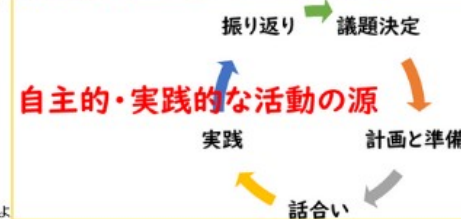


どうしたら
あいさつが
広がるかな？

＜振り返り＞1週間経過後の様子・これからの願い

あいさつをするようになって気付いたことがあったよ

学活(1)「月目標を決めよう」



話し合いの形態

	一般的	学級活動(1)
進行	学級委員/教師 班長/係	計画委員(輪番が基本)
内容	あらかじめ決まったもの (行事の内容や役割など)	子どもたちの願いから (「2学期がんばろう会」など)
メリット	総合的に 時間がかからない	子どもが主体 活躍と責任
	集団決定 個人の考えを 広げたり深めたり	集団決定をする 自発的・自治的な活動

キャリアパスポート

研究だより「櫓を漕ぐ」

神足小学校が目指す児童像(至誠・進取・敬愛)に向け、どのような取組を行っているのか、「研究だより」を通してお伝えしています。児童・教師・保護者・地域の方々が「心と力を合わせて一緒に櫓を漕ぐ」ことができるよう願いを込めています。



【成果と課題】

★成果

- ・神足小学校として大切にしたい「しなやかさ」を教職員で考え、2つのキーワードに整理できた。
- ・児童が自ら「こうしたい」という思いをもち、挑戦する姿が見られるようになった。
- ・教員同士で対話し、研究にどのように向き合うのか考えることで学び続けることができた。

★課題

- ・整理した視点が本当に目指す児童の姿につながっているのかを評価する方法を模索する。

令和5・6年度 長岡京市教育委員会指定

しなやかに思考し、表現する児童の育成

～自己理解・問題解決・他者理解の良さを実感する手立てを模索して～

R6. 11. 15



長岡京市立神足小学校



075-951-1034



京都府長岡京市神足3丁目2-1

1. 本校の研究について

◆本校では、平成17年度より6年間、道徳教育の研究において児童の内面的な資質を高め、道徳的実践力を培ってきました。その力をさらに確かなものにするために、平成23年度より「特別活動」において児童の自主的・実践的な態度を育成できるよう話し合い活動を軸に研究を進めてきました。

◆特別活動における取組の成果は実感している一方で、本校の児童の姿として、教科学習において「言われたらできるが、自ら動きだし、選択、挑戦、乗り越える力が弱い」という課題があがりました。そのため、令和4年度より、「どうすればしなやかに思考し、表現する子を育成することができるのか」を問いに研究を進めることとしました。

◆「子ども自身の力で学ぶ（自己理解）」「教科学習における意欲（問題解決）」「友達との対話（他者理解）」の3点を支えとして、しなやかな思考を高められると仮説立て、3つの部を立ち上げました。さらに今まで本校が積み重ねてきた話し合い活動は、学びの土台として位置付けました。各部の独自性・独創性を尊重しながら研究を積み重ねています。また、1年次にかけて教職員全体でイメージし続けた「しなやかさの具体的な姿」を言語化し、共通項としてあがってきた「試行錯誤」・「アップデート」を各部の共通の視点としています。

2. 研究構造

【神足小のめざす子ども像】

至誠（真面目に頑張る子）
進取（自ら進んで取り組む子）
敬愛（思い遣る子）

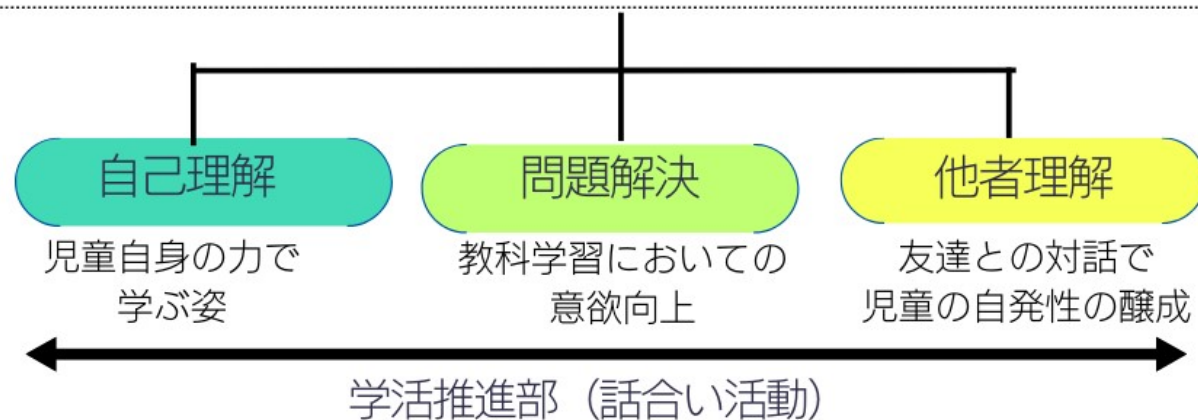
【研究テーマ】

しなやかに思考し、表現する児童の育成

～自己理解・問題解決・他者理解の良さを実感する手立てを模索して～

【目指す児童像】

課題を解決するために試行錯誤したり、解決方法を自分で考え選択できたりするようになり、自分の考えをアップデートできる児童



3. 活動内容

《自己理解部》

- ・児童のしなやかな思考を見取る「ループリック」の作成
- ・全国学力学習状況調査、学びのパスポートの分析
- ・遊び大会、運動会、6年生を送る会でしなやかな思考を意識した取組の提案
- ・授業や行事でのふり返りの視点、活用方法の提示
- ・ふり返りを意識した研究授業の提案

〈成果〉

- ・自分で課題を設定することで見通しが持て、学びに対する意欲の高まりが見られた。
- ・学び方を選択することで、学習が自分ごとになる姿が見られた。
- ・生活面や学習面など、自分の行動に意識が向いたことで、自ら変容しようとする姿が多くなった。

〈課題〉

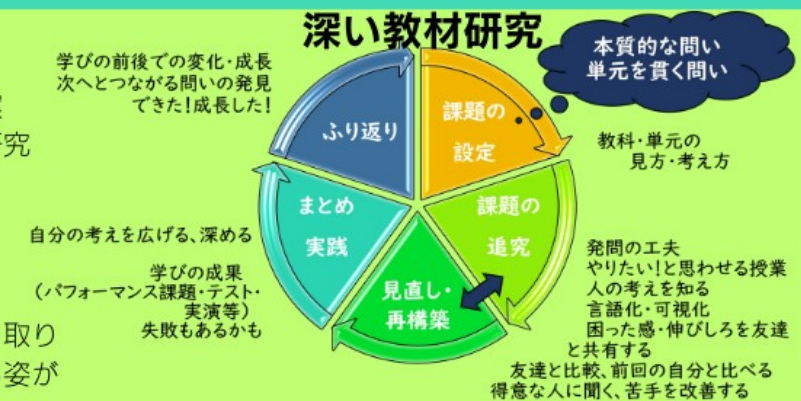
- ・自分に合う課題を設定することが難しい児童が一部おり、繰り返し支援する必要がある。
- ・自分の不得手に着目することで、支援の必要な児童にとってはかえってしなやかな思考を止めてしまう可能性がある。

《問題解決部》

- ・問題解決に関わる授業の提案
- ・単元を貫く問いを意識した研究授業の提案
- ・教材研究会の開催

〈成果〉

- ・児童の変容として、粘り強く取り組む姿や活発に試行錯誤する姿が見られた。
 - ・教師の変容として、個別の見取りにより児童理解が深まり、授業改善に繋がった。
- 〈課題〉
- ・児童の思考を見取る際の手立てを考えていく必要性を感じた。
 - ・課題を自ら見付けることができない児童や、対話の中で見方・考え方を深めることが難しい児童など、支援が必要な児童への手立てを工夫する必要がある。



《他者理解部》

- ・わくわくタイムの提案
- ・対話におけるしなやかさを見取る「ループリック」の作成
- ・低学年の対話を取り入れた研究授業の提案

〈成果〉

- ・わくわくタイムを通して、主体的に他者と関わろうとする姿が多くみられた。また、友達と楽しく学習に向かえるという安心感が、主体的に学びに向かう意欲に繋がった。
- ・ループリックの作成により、児童理解が深まると共に、児童と共有することで、同じ目標に向かって学習を進めることができた。

〈課題〉

- ・対話の中で、自分の意見を伝えられるが、友達の意見を聞いて、考えをアップデートしようとするに弱さがあったので、手立てを研究していく必要がある。
- ・児童にとって必然性のある対話場面を見極め、場を設定する必要がある。